

第5章 桶川市の商工業の基本目標

1 目指すべき姿から体系化された目標

本市の商工業は、景気低迷が長引く中、売上額・出荷額が全般的に減少傾向にあります。

とりわけ、小規模小売業は量販店やディスカウント店、近隣市町への大型商業施設の出店、時代や社会状況の変化に対応し、消費者のニーズに十分な対応ができないこと、また、新しい業種への転換が出来ないことなどが重なり、より深刻な低迷と後退を続けています。

一方、工業においても、産業の空洞化による需要の低迷と生産単価の引き下げなどで経営が厳しくなると共に、新規融資も受け難く、将来の展望が見えない状況が続いています。

したがって、本市の商工業が低迷から抜け出し、地域経済の活性化と雇用の確保を図るためには、商工業関係者や行政はもとより、市民を含めた三者各々が創意工夫をすると共に、力を合わせ、総合的な振興策に取り組むことが必要となっています。

このようなことを踏まえ、本市の将来都市像を

人が集まる元気なまち 心がふれあう豊かなまち

としましたが、この実現をめざし、商工振興において以下の基本目標を設定します。

(1) 生産・加工・小売（農・工・商）が連携した顔が見える地域経済

本市における多種多様な農業生産物の価値を再発見し、生産から小売に至るまで、誰がどのように関わったかが、消費者に伝わる仕組みを工夫し、商品に対するこだわりをアピールし、消費増大を図ることで地域経済を活性化します。

(2) 恵まれた自然と文化遺産を大切にしたい美しい住宅都市

「人が集まり、住む」ことが地域活性化の重大な要素であると認識し、人々が「安心して暮らせる、文化を大切にしたいまち」を作ります。

(3) コミュニティを大切に、人材育成と助け合いが形になるまち

地域に暮らす人々の能力や個性を発見し、人材を発掘・活用すると共に、異業種間の連携などにより、より付加価値の高いサービスを目指します。

(4) 全国への商品・観光資源の発信による市場拡大

これまで、培われた祭りやイベントを発展させ、まちをアピールするとともに、付加価値の高い商品の情報発信をすることで、市内外における消費の拡大を図ります。

2 基本目標

(1) 生産・加工・小売（農・工・商）が連携した顔が見える地域経済

《共通事項》

- ・実態調査・意向調査
- ・事業者の意識改革
- ・経営の改善・強化
- ・支援制度の充実
- ・農・工・商や観光との連携

《商業》

- ・需要の創出と拡大
- ・空店舗の活用
- ・特色ある商店街づくり

《工業》

- ・需要の創出と拡大

(2) 恵まれた自然と文化遺産を大切にしたい美しい住宅都市

《共通事項》

- ・安心安全なまちづくりの推進
- ・環境に優しいまちづくりの推進

《商業》

- ・歩いて楽しい商店街の整備
- ・商業活動をスムーズにする都市基盤の整備

《工業》

- ・整然とした住環境、住工混在解消

(3) コミュニティを大切に、人材育成と助け合いが形になるまち

《共通事項》

- ・人材の活用

《商業》

- ・人づくり、組織づくりへの支援強化
- ・コミュニティ・ビジネスの展開
- ・異業種間の協力

《工業》

- ・産・学・官の連携強化
- ・地域イベントの開催

(4) 全国への商品・観光資源の発信による市場拡大

《共通事項》

- ・情報通信技術の活用

《商業》

- ・観光資源の整備と観光客の誘導

《工業》

- ・彩の国工場制度等の活用によるPR

